

6-1 中部日本北部における最近の地震活動（1993年1月～3月）

Recent Seismic Activity in the Northern part of Chubu District of Japan (January - March, 1993)

京都大学防災研究所
地震予知研究センター

Research Center for Earthquake Prediction
Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University

1992年から活発化してきたこの地方の地震活動は、1993年2月7日に能登半島沖に発生したM6.6の地震で大きな山を迎えたと言える。第1図に1993年1月から3月のこの地方の震央分布図を示す。この期間には、以前から継続している群発活動を含め9つの地域で地震の群発活動がある。

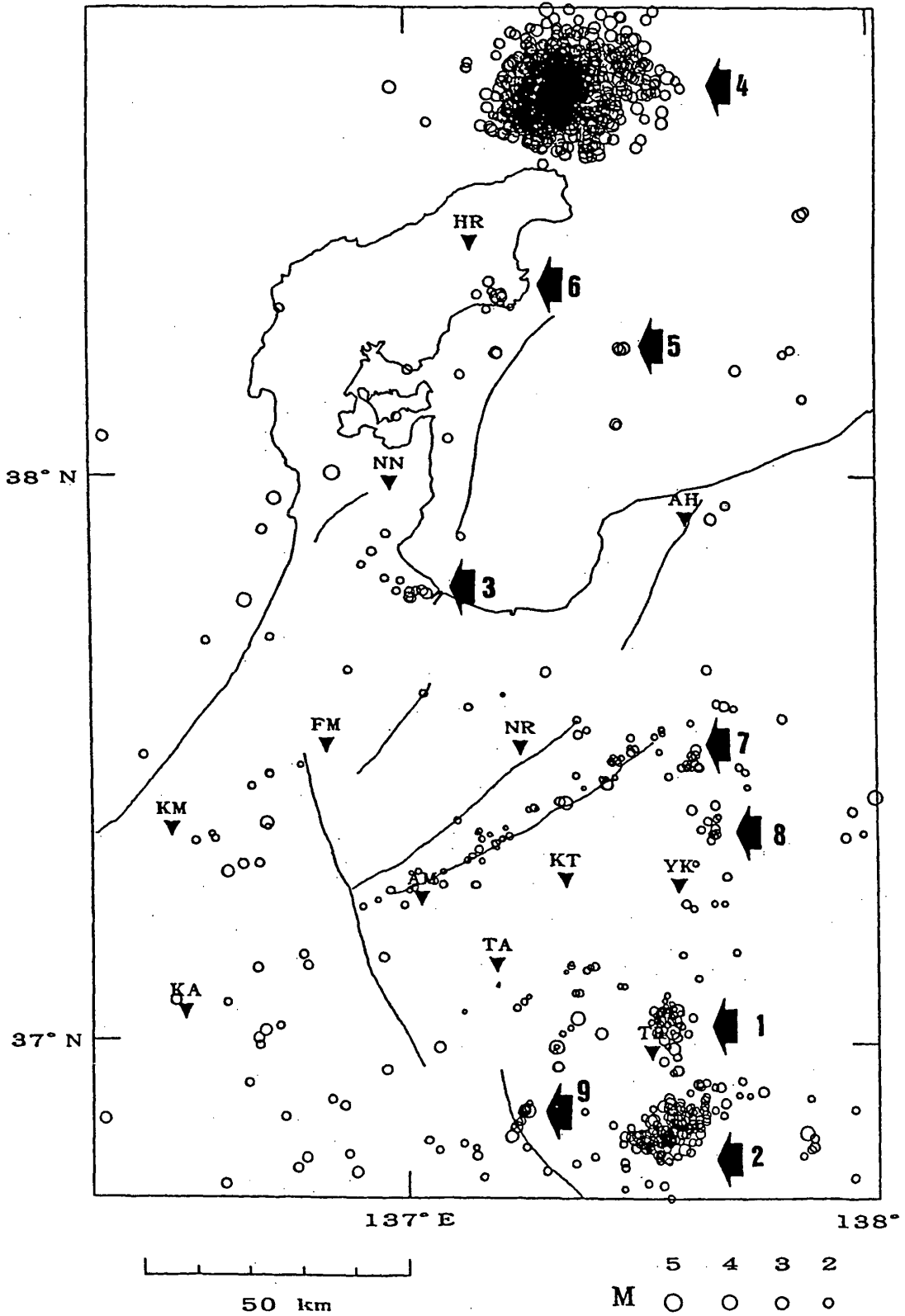
図中の番号を追って説明すると、1)～3)は以前から継続しているもので、それぞれ乗鞍岳南西、長野県西部、小矢部川河口周辺の群発活動である。長野県西部の群発活動の最近の活動は後述するが、3月までの段階では活動はそれほど活発ではない。4)は2月7日に発生したM6.6の地震の余震活動で、震源域を拡大しながら継続している。5)は富山湾に2月に発生した群発活動であるが最大のものでM3.5以下である。6)は能登半島内浦町で2月22日に発生したM4.6の地震の余震活動である。7)および8)は飛驒山脈の烏帽子岳付近および槍ヶ岳付近で発生し群発活動で7)は2月から3月、8)は3月に始まり3月末ではまだ継続して活動している。9)は3月29日に阿寺断層の萩原町周辺で起こったM3.6の地震の余震活動である。

長野県西部の地震活動

第2図に上宝観測所でトリガーのかかった長野県西部の日別地震数を示したものである。3月末から4月初めにかけて地震数が増加し出し、15、6日の小さなピークを経て、4月23日に最大の地震数を記録したがその後は順調に減少していると思われる。

飛驒山脈の地震の次空間分布

第3図に1989年から1993年3月までの飛驒山脈沿いに発生した地震の時空間分布図を示す。縦軸は飛驒山脈の北方を上、南方を下にしている。御岳周辺（長野県西部）の群発活動は90年から91年にかけて活動が幾らか低下し91年の後半から少し活発になり92年の12月に少し減少した時期があるがほとんど同じ様なレベルで3月まで推移している。これに対して乗鞍岳南方の群発活動は90年のピーク時から順調に減少しているが、今年の2、3月は特にその数を減らしている。89年以降の両地域の地震活動の変化が相補的であると言う見方もできる。その他は、烏帽子岳周辺の地震が少し見られるが、全般に92年後半からは全体的に活動が低下しているように思われる。



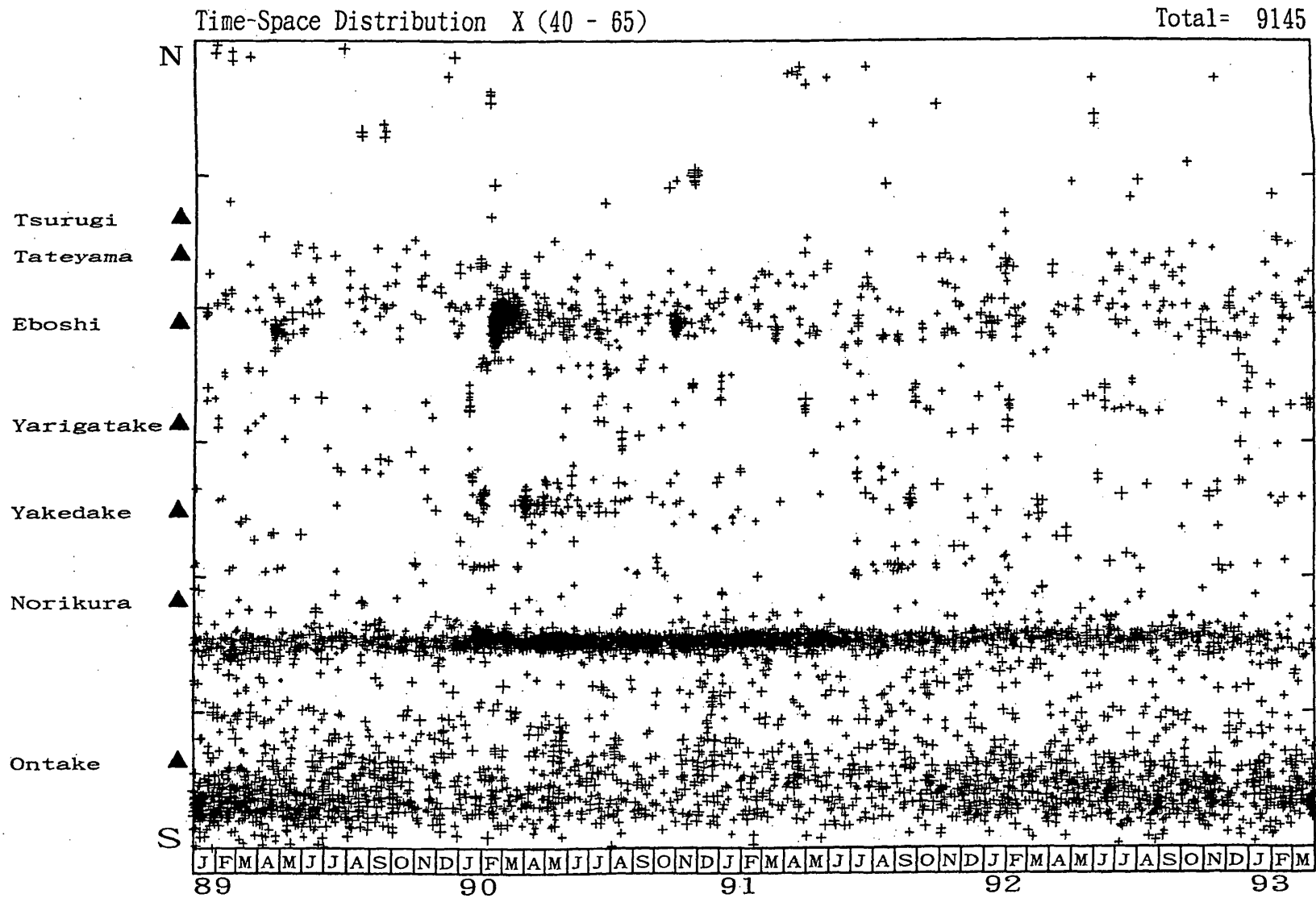
第1図 中部日本北部の地震活動 (1993年1月~3月)

Fig.1 Seismicity in the North Part of Chubu District of Japan, January-March, 1993



第2図 長野県西部地震の地震数の変化

Fig.2 Frequency Distribution of Earthquakes in the Western Part of Nagano District (Daily Number of Earthquakes triggered at Kamitakara Observation).



第3図 飛驒山脈の地震の時空間分布

Fig.3 Time-Space Distribution of Earthquakes occurred along Hida Mountains